

特集「2020年に向けた情報処理」の編集にあたって

相澤 彰子^{1,a)}

論文誌を通して研究成果がタイムリーかつスピーディに論文として採択され公表されることは、情報処理分野の学術の発展に寄与することはいうまでもなく、研究者のキャリアアップや研究プロジェクト推進の上で大きな力となる。そのような背景から論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会で、2015年および2016年に学生・若手研究者論文特集号を企画したところ、当初の予想を大きく上回る投稿が寄せられ盛況となった。

これらの学生・若手研究者論文特集号の特徴は、第1に学生や若手を対象としていること、第2に分野を限定せず年内に採否の通知が著者のもとに届くようスケジュールを組んでいること、の2点であった。そこで今回は後者に焦点を絞り、「査読期間の保証」に対するニーズ調査の意味も込めて新たな特集号（2020特集号）を企画した。2020特集号では投稿者を学生・若手研究者に限定せず、広く学会員に投稿を呼びかけ、2020年を見据えた研究や技術開発に関する論文を受け付けることとした。

2020特集号は、論文誌ジャーナル編集委員会幹事会のメンバーが中心となって編集し、さらに投稿論文の話題にあわせて編集委員の補充も行った。これらの熟練した編集委員がメタレビューとなって慎重に査読を行った結果、採択率は23%と厳し目になったが、価値ある3件の論文が掲載される運びとなった。

投稿数についていえば、2020特集号への投稿は過去の学生・若手研究者論文特集号より大幅な減となり、「学生・若手」を対象とした特集号への期待を裏書きする形となった。一方で、学会員の皆様から14件のご投稿をいただいたことは、採否判定の期間が保証されている査読について、一定のニーズがあることを示すとも考えられる。今回の特集号を通して明らかになった知見や課題が、今後の論文誌ジャーナルの向上に結び付くことを期待している。

最後に、編集にご協力いただいた編集委員、査読委員、事務局の皆様がこの場を借りて御礼申し上げたい。

「2020年に向けた情報処理」特集号編集委員会

- 編集長
相澤彰子（国立情報学研究所）
- 副編集長
岡部寿男（京都大学）
- 編集委員（五十音順）
浅井信吉（会津大学）
飯田 龍（NICT）
今泉貴史（千葉大学）
沖野浩二（富山大学）
重安哲也（県立広島大学）
関野 樹（総合地球環境学研究所）
竹田尚彦（文部科学省）
立石孝彰（日本アイ・ビー・エム）
豊浦正広（山梨大学）
中山泰一（電気通信大学）
林 佑樹（大阪府立大学）
藤田桂英（東京農工大学）
藤本敬介（ABEJA）
堀山貴史（埼玉大学）

¹ 国立情報学研究所
Chiyoda, Tokyo 101-8430, Japan

a) aizawa@nii.ac.jp